



平成29年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業

平成29年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業(主催=日本武道館、日本相撲連盟、日本武道協議会、後援=スポーツ庁)は1月20・21日の2日間、日本武道館大会議室で研究者8名が参加して行われた。本事業は平成24年度から完全実施された中学校保健体育授業の充実に向け、現行学習指導要領に準拠し、年間8～10時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる武道・相撲授業の実施を目的とする指導法研究会である。今回は昨年11月に開催された全国相撲指導者研修会の振り返りを中心に検討協議が行われた。

■1日目(1月20日)

開講式では、はじめに安井和男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立った。

「来年ハワイで世界選手権が開催されるが、昨年12月の全日本選手権にアメリカ連盟が視察に訪れ、連盟で作成した中学生向けの指導DVDを観せたところ、大変関心を持ち、少年期指導の資料として使いたいとの話があり、吹替版を作成することになった。このように相撲は世界に広がっている。また、国内に目を向けたとき、障害者や特別支援学級の生徒も念頭に置いて、この事業を進めていきたい」

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶を行った。

「相撲は見て楽しい、やっても楽しい、国民が愛する国技である。国際的にも多くの愛好者と高い評価を得ている。相撲の可能性は大きい、その割に採用校がまだ少ない。指導書DVDを活用して中学校現場でどのように授業を展開していくか、本事業や全国指導者研修会を役立て、相撲を通して、中学生を心身ともにたくましく育てていただきたい」

開講式に続いて、昨年11月に開催された第4回全国相撲指導者研修会の実施内容を振り返り、作成中の報告書の原稿を研究者全員がそれぞれ確認、修正点及び内容の再確認を行った。

午後は特別支援学校での相撲授業の展開や、将来のパラリンピック参加も視野に入れた障害者の授業実践例及び競技参加についての検討を行った。

これについて、満留久摩研究者より、山梨県富士吉田市立下吉田中学校における特別支援学級の生徒を交えて行った相撲授業の実践例が報告された。

「同校には情緒、肢体障害の生徒もいるが、授業として成り立っており、当人たちも喜んで相撲授業に臨んでいた。何よりも「健常者と一緒に授業を受けられたこと」が大きかった。具体的な効果としては歩き方の不自然な子が、自然に歩くようになった。

筋力がついたということであろう。心理的にも自分もみんなと一緒にできるという意識になった。健常者の生徒にとっても特別支援の生徒と普段は一緒にいない時間が長いので、遠い存在だったが、転んでも大丈夫とか、手を貸しても大丈夫とか、関わり方や意識の変化があった」

桑森真介研究者より日本武道学会には障害者武道専門分科会があり、主に柔道を中心に研究が進められているので、そこから情報を集めると参考になると助言があった。

安藤均研究者より、長野県下の特別支援学級の状況について、年度末までに調査すると発言があった。

■2日目(1月21日)

はじめに、全国相撲指導者研修会の参加者に対して行ったアンケート結果について検討を行った。それに基づいて各研究者より意見が述べられた。

●太田麻乃研究者

アンケート結果の傾向から、参加者が自分で活動するグループワークに高い満足度を示す傾向が読み取れ、また、自由記述からケガについての知識を求めていることがわかった。

●堀内弥研究者

研修会は連盟推薦の方に負担が大きいと予想していたが、有意義だったという意見が多かった。また、研修会のコマに活動的なものを加えるのが大事。

●桑森真介研究者

現段階では教員と連盟と学生を比較して、2日目のグループワークによる指導案の作成には大きな意識の違いがある。連盟関係者には関心が高いが、自由記述を見ると「連盟の参加者には指導計画などの講義はなじまないのでは？」という意見がある。指導案の作成ではグループを2つに分けることも検討している。また、講義形式は人気がないといえる。ただし、南和文先生の講義は評価が高い。

●浦嶋三郎研究者

大学生には、実践が高評価となっている。私が気になったのは多くの人が安全面に関心があることである。また、中学生に対する模擬授業への関心が高い。

●安藤均研究者

アンケートで、参加者の興味関心を数値化したの

はニーズを読み取りやすくする効果があり、いいことであった。怪我については、記述式で予防と対策、応急処置、対処法の3つあるが、どういうものを求めているかを調べて、それに応じたことをやっていった方がいい。実際に消防の救命救急専門の方を呼んで応急処置の講習を行うことも一つの方法であろう。コース別を取り入れて、参加者のニーズに合ったことをするといい。

●村田安啓研究者

アンケートの集計は大変有意義である。これを見るとアンケートの調査方法に再考の余地がある。参加者のうち、2割くらいは提出していない。初心者の先生がどう授業に活かすのかという考え方でいくと、教員の数値が思ったより高くない。

●吉村登日本相撲連盟事務長

安井先生が研修会の開講式で、研修会の際は仲間づくりの場でもあると言ったが、情報交換会に○がなかったのはちょっと残念だった。

◇

各人の意見を集約し、次回の研修会では試験的に初日の1コマを選択制のコース別とすることが確認された。また、どのように分けるのかについて議論が交わされた。また、申込書の記載項目や参加目的の調査方法についても議論がなされた。

午後は来年度実施される静岡県焼津市立港中学校での相撲授業の視察報告が行われ、その後、村田研究者より出されたスポーツ振興センターの資料に基づいて、各武道の学校内における事故の発生について、説明がなされた。

閉講式では、安井専務理事が研究者の労をねぎらい、すべての日程が終了した。



集合写真